



菊陽町は、昭和30年4月1日に菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村の3カ村合併により「菊陽村」として誕生後、昭和44年1月1日に町制を施行し、今年で50周年を迎えました。町制施行当時は人口1万800人で、新熊本空港の建設が急ピッチで進められ、また農地のほ場整備が始まった時期でした。その後、恵まれた立地条件もあり、幹線道路や新熊本空港の開港、高速道路の開通などの交通網の整備、土地区画整理や下水道といった都市基盤の整備、企業誘致、農業の振興、子育て支援策などによって、生活機能と生産機能が調和した、快適で活力ある「生活都市」へと変貌しています。人口は町制施行時の4倍の4万2千人となり、現在も増え続けています。

町がこのような発展を続けることができるのも、国・県をはじめ、町議会や先人のご功績はもとより、陰に陽に町勢進展のためご尽力をいただいた町民の皆さまのおかげであり、深く敬意と感謝の意を表します。

忘れてはならないのが、平成28年4月に発生した「熊本地震」です。本町では6千棟の家屋をはじめ、さまざまな公共施設が被災しました。地震からの復旧は進んでいますが、仮設住宅での生活を余儀なくされておられる方など、未だ生活再建ができていない方が多数いらっしゃいます。町では、被災者に対する支援を継続して行っていくとともに、復興に向けてさまざまな取り組みを行ってまいります。

今日の社会・経済情勢は日々大きく変動し、人々の価値観や生活様式の多様化、少子高齢化の進行、高度情報化の進展など大きく変化しています。また、地方分権の潮流の中で自治体が果たす役割も変わり、新しい時代に対応したまちづくりが求められています。

本町では町の将来像を「人・緑 未来輝く生活都市 きくよう」と掲げ、すべての人が、緑に囲まれた中で健康で楽しく、安全で快適に、また、活力に満ち、心が触れ合える生活ができるような、一人ひとりの未来が輝けるまちづくりの実現に全力で取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

菊陽町長 後藤 三雄

町ホームページ内に、町制施行50周年記念特設ページを設けています。フォトギャラリーや50周年記念映像などを掲載していますのでぜひご覧ください。



50周年記念特設ページ

## 人文字で見る菊陽の昔と今



昭和44年 熊本日日新聞社撮影

昭和44年1月7日に、町制施行を記念して、菊陽中部小学校運動場で菊陽中学校の生徒が「キクヨウ」の人文字を描きました。



平成31年1月22日撮影

平成31年1月22日に、町制施行50周年を記念して、50年前と同じ場所で菊陽中部小学校の5～6年生約270人が人文字を再現しました。

して、九州旅客鉄道（JR九州）初代社長石井幸孝氏による講演がありました。石井氏は「観光集積や知的集積などを総合的に行い、今、元気があがる菊陽町だからこそ、これからの50年をさらに発展させ、日本全体の手本となるような町になっしてほしい」と話しました。なお、町では町制施行50周年を記念して、庁舎に懸垂幕を掲げているほか、町制施行時に菊陽中部小学校運動場で行った「キクヨウ」の人文字の再現を行いました。



1. 澄んだ歌声を披露した菊陽中学校合唱部 2. 後藤町長による式辞 3. 4. 会場には約400人が来場し、町の50年を振り返った 5. 九州旅客鉄道（JR九州）初代社長の石井幸孝氏による記念講演

## 先人への感謝と町の飛躍、発展を願って

# 菊陽町町制施行50周年記念式典

菊陽町町制施行50周年記念式典を2月11日、菊陽町図書館ホールで開催しました。本町は昭和44年に町制施行し「菊陽町」として誕生以来、今年で50周年を迎えました。

式典には、来賓や関係者、町民など約400人が来場。オープニングセレモニーでは、菊陽中合唱部が「伸びる菊陽」など4曲を合唱。続いて本町の歩みを映像で振り返り、今まで町を創り上げてきた先人に思いをはせました。

また、記念講演として、「国鉄からJRへ「激動の50年」を語る」菊陽町へのメッセージ」と題

